

腰痛①

～このような症状の腰痛には要注意～

整形外科を受診する患者さんの多くは、腰痛を訴えて来られます。一口に腰痛といっても、安静にしていれば治る軽いものから、重篤なものまで多種多様な疾患があります。また、腰痛に関しては、まだ分かっていない事も多く、その原因がレントゲンでは説明できないことも多くあります。例えば、腰痛で外来に来られた患者さんで、「レントゲンは正常です」と言われた経験のある方も多いと思います。また、レントゲンで骨や関節が非常に変形した所見があっても、全く痛みを感じていない人もいます。

では何故、レントゲンが必要なのでしょうか。それは、治療をしなければならないような重篤な疾患を鑑別するためです。以下に述べるような症状が出たときには要注意です。

① 発熱をともなう腰痛

→感染や炎症の可能性があります、内科的な疾患も考えられます。

② 体重減少をともなう腰痛

→腫瘍の可能性

③ 安静時にもある腰痛

→内科的な疾患の可能性があります。

④ 下肢の脱力をともなう腰痛

→神経が圧迫されている可能性があります、麻痺が進行することがあります。

⑤ 鎮痛薬を内服しても治らない腰痛

(文責 真田)